今後必要とされる人材

校長　新保　喜和

　日に日に秋が深まる季節となりました。子どもたちは運動会後、少し落ち着きがありませんでしたが、現在は、平静に学習などに取り組み、お友だちと仲良く活動しています。ご心配なことがありましたら、遠慮せず学校までご連絡をお願いします。

経済産業省

未来人材ビジョン

令和4年5月

　さて、経済産業省が、デジタル化・脱炭素化など急激な技術革新の進展等による2030 年、2050 年の産業構造の転換を見据え、「未来人材ビジョン」を発表しています。

　これは雇用・人材育成や教育システムに関するビジョンを示した 109 ページのスライドからなる資料で、「問題意識」「労働需要の推計」「雇用・人材育成」「教育」「結語」の内容で多くのデータがあり、非常に興味深いものでした。このビジョンは、関係者の議論を喚起するための最初の出発点ということですが、子どもたちの未来を見据え、特に印象に残った（教師や保護者などの大人にとって参考になる）4枚のスライドを紹介します。

次の社会を形づくる若い世代に対しては、

「常識や前提にとらわれず、
ゼロからイチを生み出す能力」
「夢中を手放さず
一つのことを掘り下げていく姿勢」
「グローバルな社会課題を解決する
意欲」
「多様性を受容し他者と協働する能力」

といった、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められる。

　イノベーションやグローバルマインド、共生・協働などについては、これまでも今後のキーワードとなっていたものですが、「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」については、新鮮さを感じました。これからの時代に必要となる能力やスキルは、基礎能力や高度な専門知識だけなく、

根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められるとのことです。

現場を支える方々を含めて、

あらゆる人が時代の変化を察知し、
能力やスキルを絶えず更新し続けなければ、今後加速する産業構造の転換に適応できないとの声もあった。

未来人材会議では、これを踏まえる形で、2030 年、2050 年における日本の労働需要を推計することとした。

そして、加速度的に変化する現代に対応するために常に学習していく必要があることは言うまでもありません。大人が学んでいる姿を子どもに見せたり、子どもとともに学ぶこともいいことだと思います。

新たな未来を牽引する人材が求められる。

それは、好きなことにのめり込んで豊かな発想や専門性を身に付け、

多様な他者と協働しながら、新たな価値やビジョンを創造し、

社会課題や生活課題に「新しい解」を生み出せる人材である。

そうした人材は、「育てられる」のではなく、ある一定の環境の中で「自ら育つ」という視点が重要となる。

教育では、興味や関心を持ったことを学ばせ、専門性を身につけさせることや、「自ら育つ」視点から「自立・自律した」学習者の育成のため主体的・協同的な学びが必要です。

現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されるが、

将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められる。

56の能力等に対する需要

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基盤スキル※	1.09
意欲積極性	1.09
⋮	⋮

※基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性※	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル：口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
⋮	⋮

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

現在必要とされる「注深さ・ミスがないこと」「責任感・まじめさ」「信頼感・誠実さ」など前提で（過去を否定するものではなく）、そのうえで、将来、特に「問題発見力」「的確な予測」「革新性」などが求められるということでしょう。

「未来人材ビジョン」

https://www.meti.go.jp/press/2022/05/20220531001/20220531001-1.pdf